

2025年3月期第1四半期 業績概要

杉田 俊一

アンリツ株式会社
取締役 常務執行役員

2024年7月31日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

1. 事業概要
 2. 2025年3月期第1四半期 連結決算概要
 3. 2025年3月期 通期業績予想（連結）
 4. 当社の取り組みについて
- Appendix：用語集

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ◆ モバイル市場：5G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食と医薬品の安全・安心

- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場



環境計測事業

脱炭素社会を目指して

- ◆ EV/電池試験市場
- ◆ ローカル5G導入支援



その他

- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他



(セグメント別売上比率)

2024年3月期 実績 (連結)：1,100億円

通信計測 64%			PQA 23%	環境計測 7%	その他 6%
モバイル 42%	ネットワーク・インフラ 36%	エレクトロニクス 22%			

2025年3月期 1Q実績 (連結)：252億円

通信計測 67%			PQA 22%	環境計測 6%	その他 5%
モバイル 41%	ネットワーク・インフラ 37%	エレクトロニクス 22%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2024年3月期 実績

日本 16%	アジア他 38%	米州 26%	EMEA 20%
--------	----------	--------	----------

2025年3月期 1Q実績

日本 15%	アジア他 41%	米州 28%	EMEA 16%
--------	----------	--------	----------

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 受注：13%増、売上：11%増収、営業利益：7億円の増益、当期利益：5億円の増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	230	260	30	13%
売上高	227	252	25	11%
営業利益	△1	6	7	-
税引前利益	4	13	9	194%
当期利益	2	7	5	197%
当期包括利益	34	34	0	1%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前年同期比増減額を除く)

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 前年同期比で、通信計測、PQA、環境計測ともに増収増益

(単位：億円)

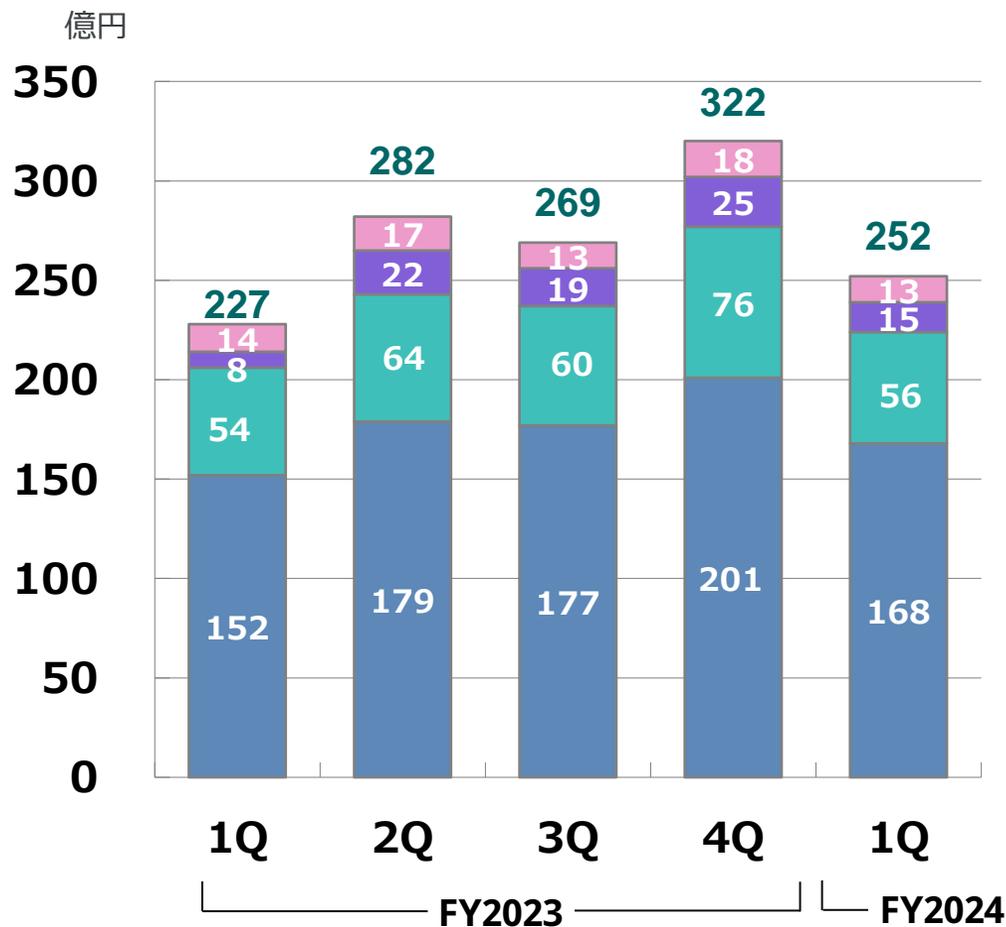
国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	152	168	16	11%
	営業利益	4	6	2	43%
PQA	売上高	54	56	2	4%
	営業利益	0	1	1	538%
環境計測	売上高	8	15	7	81%
	営業利益	△3	△1	2	-
その他	売上高	14	13	△1	△1%
	営業利益	1	3	2	361%
調整額	営業利益	△3	△4	△1	-
合計	売上高	227	252	25	11%
	営業利益	△1	6	7	-

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

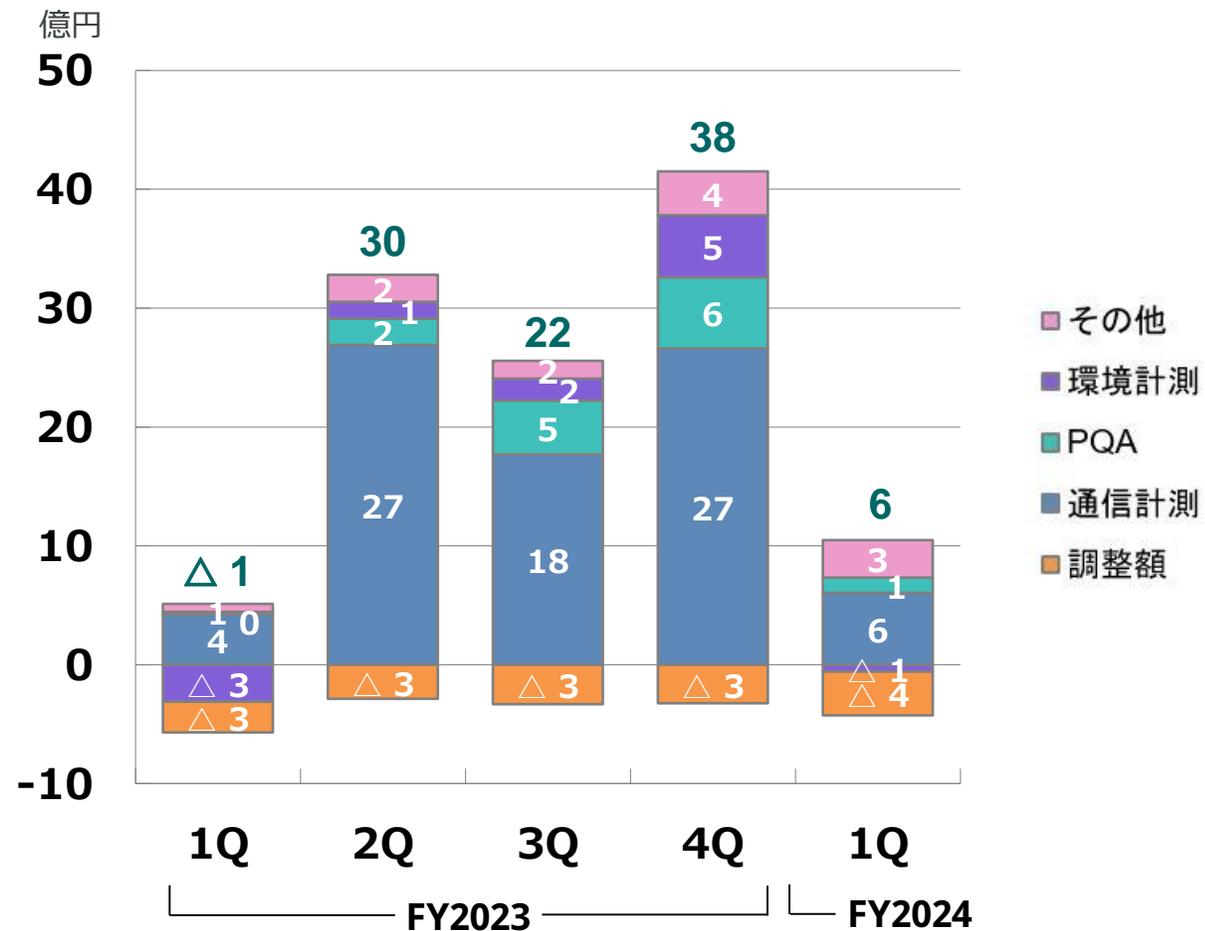
(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：連結 2.5%、通信計測 3.6%、PQA 2.3%



売上高



営業利益

(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2025年3月期（4-6月）の状況

➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、投資への慎重姿勢が継続
固定ネットワークの高速化需要は順調

モバイル

5G開発市場の投資は不安定も需要は継続

ネットワークインフラ

グリーンデータセンターや生成AI専用のデータセンターの構築が加速

エレクトロニクス

6G基礎研究がスタート

アジア他・日本

中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞もデータセンター関連市場が活況

アメリカ

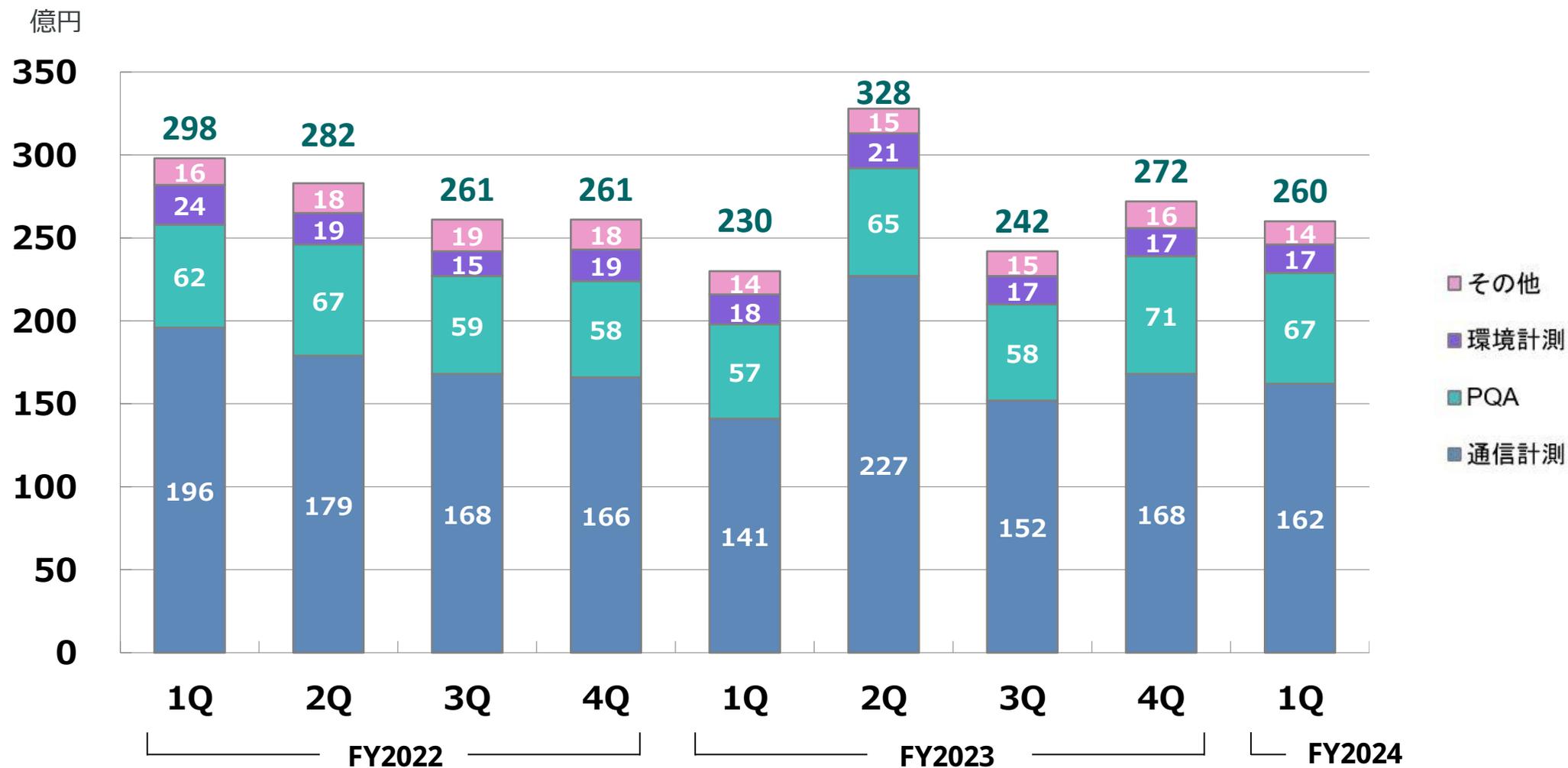
生成AI等の好調によりデータセンター市場が活況
基地局建設・保守市場が低調

➡ PQA：米州を中心に海外での需要が堅調。国内ではインバウンド関連需要は好調

➡ 環境計測：EV/電池向け試験装置の需要が堅調

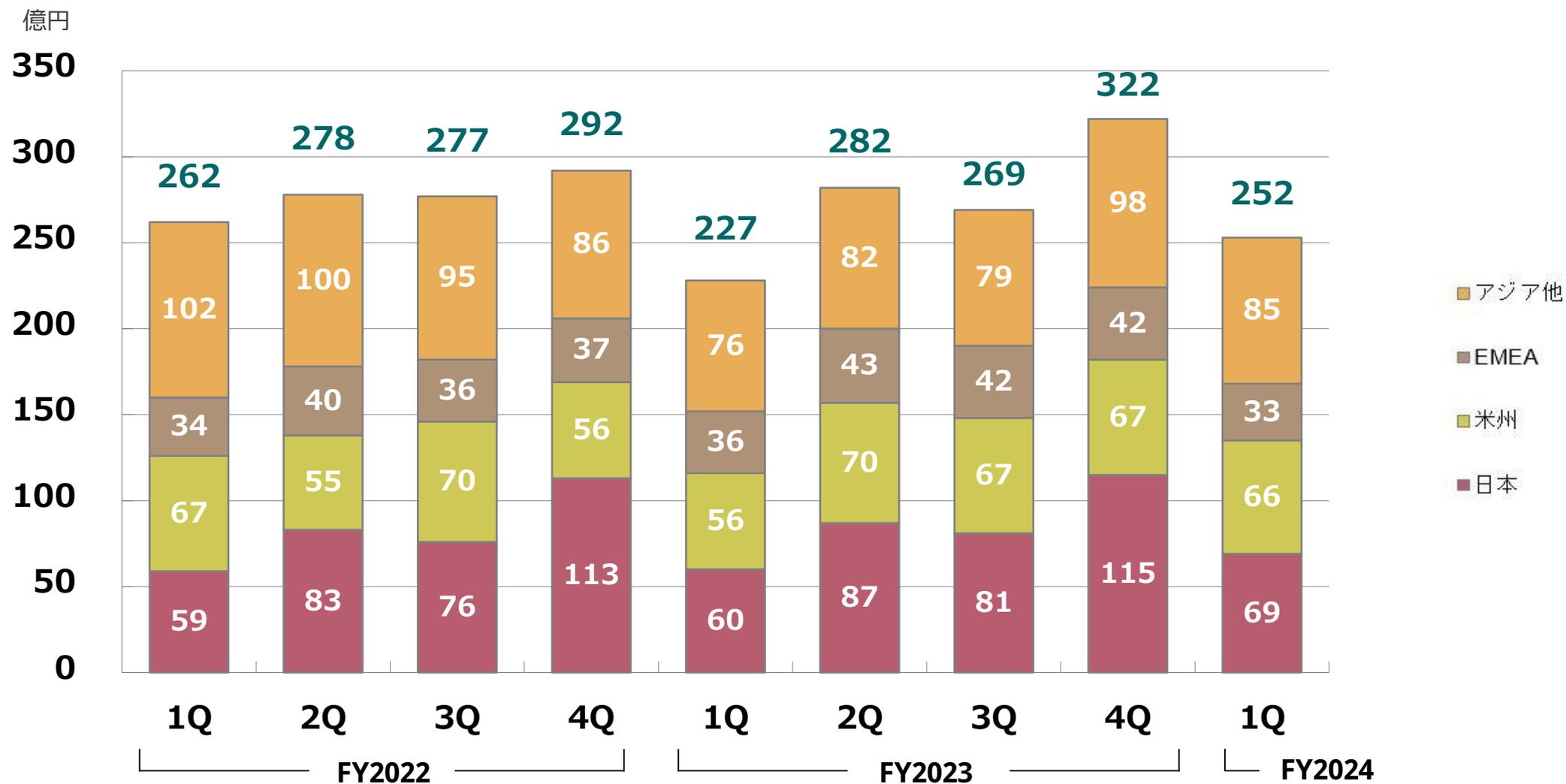
2-5. 受注高推移

▶ 前年同期比 通信計測：15%増、PQA：18%増、環境計測：8%減



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 15.2%

FY2024 (4-6月)

- ①営業CF： 38億円
- ②投資CF： △8億円
- ③財務CF： △29億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 31億円

現金同等物期末残高

472億円

有利子負債高

73億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)

売上債権	24		
減価償却	15		
棚卸資産	7		
税引前利益	13		
税金	△11	設備投資 △8	配当金 △26
仕入債務	△10		
			その他 △3
営業CF	38	投資CF △8	財務CF △29

3. 2025年3月期 通期業績予想 (連結)

▶ 4月25日公表値から変更なし

(単位：億円)

		2024/3期	2025/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,100	1,150	50	5%
営業利益		90	110	20	22%
税引前利益		100	110	10	11%
当期利益		77	83	6	8%
通信計測	売上高	710	738	28	4%
	営業利益	75	92	17	22%
PQA	売上高	254	267	13	5%
	営業利益	13	19	6	47%
環境計測	売上高	74	90	16	21%
	営業利益	5	7	2	30%
その他	売上高	61	55	△ 6	△ 10%
	営業利益	8	4	△ 4	△ 51%
調整額	営業利益	△ 12	△ 12	0	-

(参考) FY23 為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ157円
FY24 想定為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ155円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前期比増減額を除く)

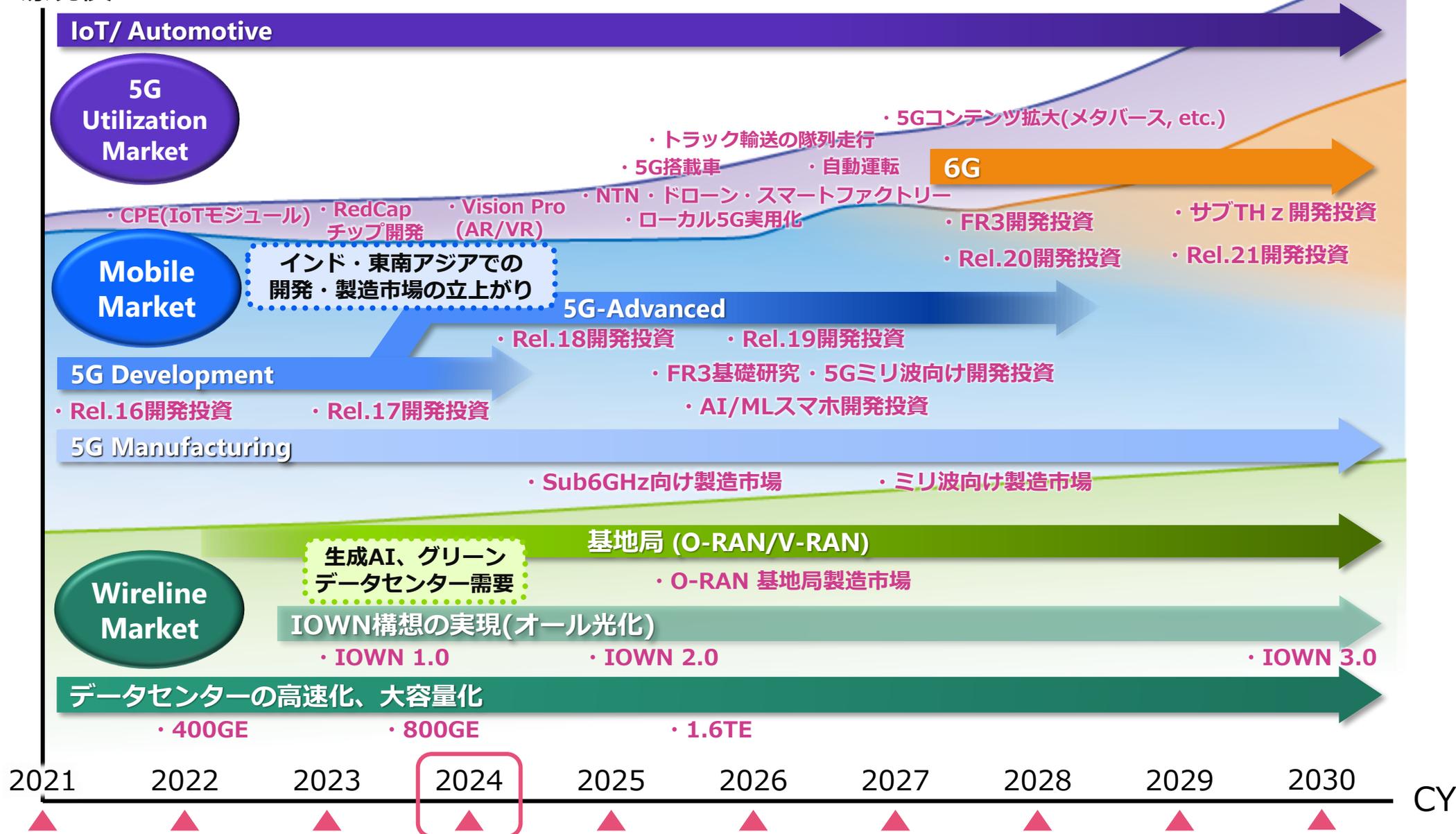
4. 当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



4-2. サーバー内高速化のための開発向けソリューション

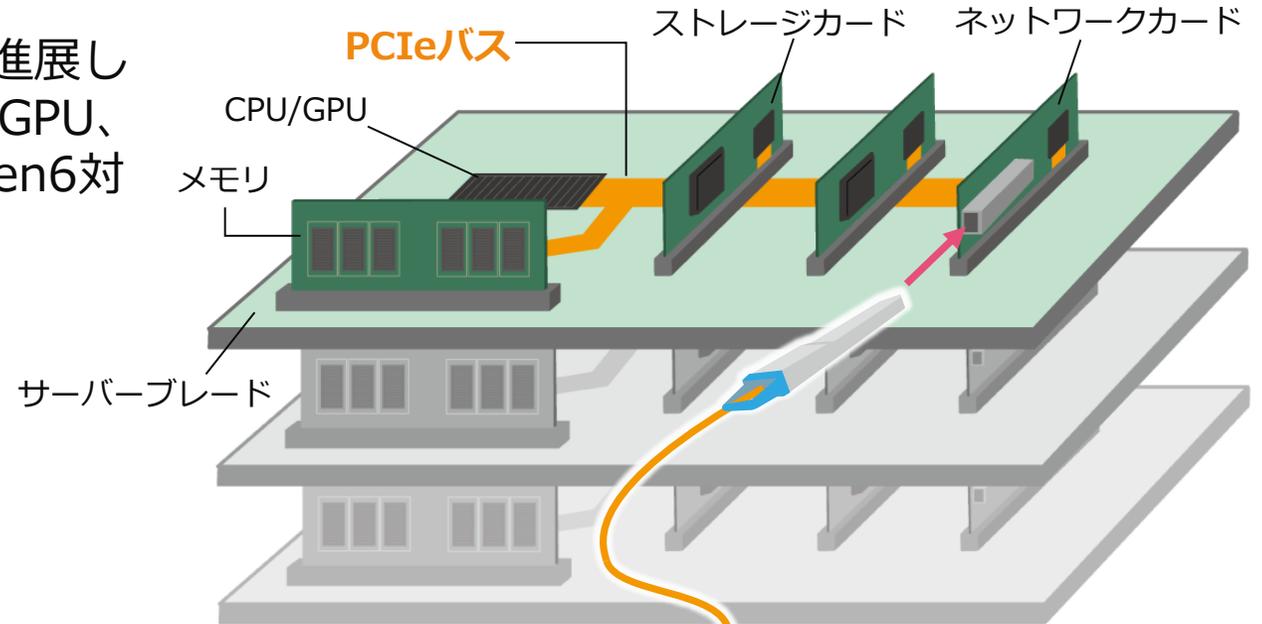
サーバー内通信の高速化に向けて、PCIe Gen6に対応

サーバー間の光ネットワークとして、800GE化が進展している。これに伴い、サーバブレード上のCPU/GPU、メモリ、各種モジュール間の高速通信にPCIe Gen6対応が進められている。

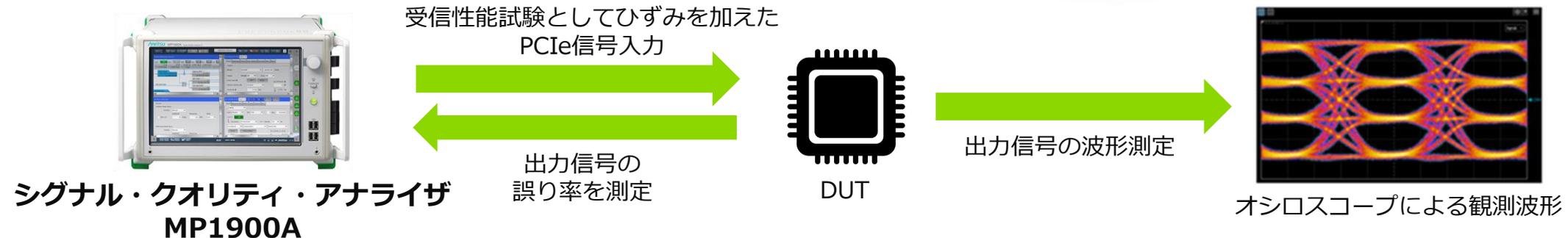
MP1900Aの強み：

- ・ 自社内製デバイスを使用することで高い波形品質の出力信号を実現
- ・ Gen6が要求するLink Training (ループバック試験) プロトコルに対応 (業界初*) *：アンリツ調査による

データ誤り率と波形品質の評価に使用



800GEの光ネットワーク



生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴う光トランシーバー評価に対応

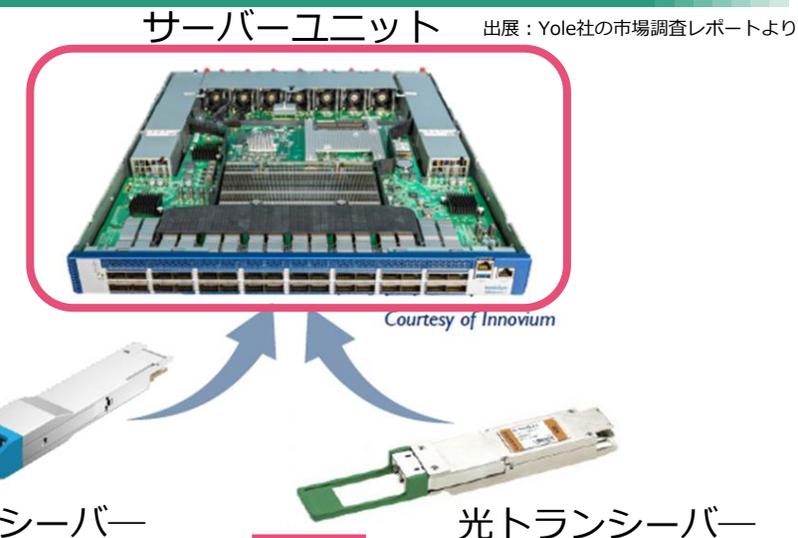


BERTWave MP2110A

MP2110Aの強み：

製造検査に最適な構成

- ・ 4チャンネルの同時測定が可能
- ・ 誤り率測定と波形品質測定を1台で対応

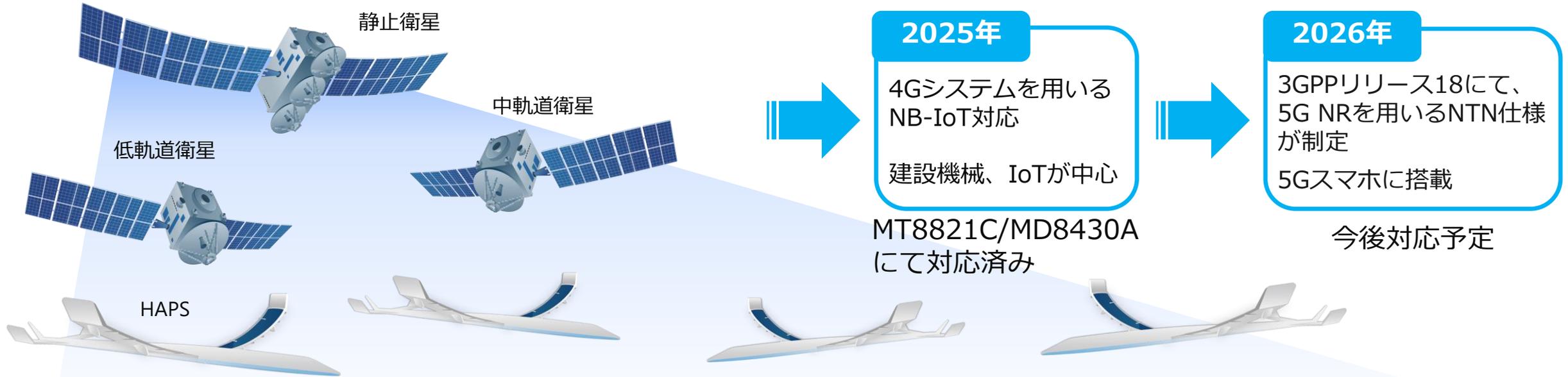


サーバーラックの裏側

サーバーユニットに挿入される大量の光トランシーバー

出典：Explore our photo gallery - Google Data Centersより
<https://www.google.com/about/datacenters/gallery/>

衛星やHAPSを用いたモバイル通信サービス実現に向けNTN規格に対応



エリアの拡大

山岳地域における
コネクティビティの拡大

海上エリアにおける コネクティビティの拡大

既存インフラの代替

モバイル基地局・固定
電話・自営無線の代替

IoTサービス

各種IoT機器との
コネクティビティ

災害対策の拡充

災害時の情報収集
緊急連絡

バックホール回線

インフラ拡充整備
移動体向けWiFi

NTN利用時のユースケース

4-5. サステナビリティ目標 (SDGs) の結果

	KPI	GLP2023の目標	2023年度実績	結果
E 環境	● 温室効果ガス*1 (Scope1+2)	2015年度比 23%削減	36.6%削減	◎
	● 温室効果ガス*1 (Scope3)	2018年度比 13%削減	38.8%削減	◎
	● 自家発電比率 (PGRE 30*2)	13%以上 (2018年度電力消費量を基準)	10.4% (参考: 2020年度実績 3.3%)	△
S 社会	● 女性の活躍推進	女性管理職比率15%以上	12.1% (グローバル、2024年4月1日) (参考: 2021年3月末実績 10.8%)	△
	● 高齢者活躍推進	70歳までの雇用及び新処遇制度確立	70歳までの雇用及び新処遇制度運用継続	○
	● 障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率2.3%達成	障がい者雇用率2.66% (2024年3月末)	○
	● サプライチェーンDDの強化	3年累積10社以上	3年累計で20社実施 (2023年度は8社実施)	◎
	● CSR調達に係るサプライヤへの情報発信2回/年以上、教育1回/年以上		情報発信3回、教育2回実施 (3年累計で、情報発信9回、教育4回実施)	○
G ガバナンス	● 取締役会の多様性の推進	社外取締役比率50%以上	社外取締役比率50%継続 (10人中5人)	○
	● 海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が統制自己評価 (CSA) の基準を満たす	全ての項目で基準を満たす会社: 90% (項目数: 181)	△

*1 温室効果ガスに関するGLP2023の目標値及び実績値に関しては、2022年1月に当社の子会社となった高砂製作所の数値は含みません。

*2 PGREは、Private Generation of Renewable Energy (再エネ自家発電) の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。

3GPP :	3rd Generation Partnership Project
5G NR :	5th Generation New Radio access technology
AR :	Augmented Reality
CPE :	Customer Premises Equipment
CSR:	Corporate Social Responsibility
DD :	Due Diligence
EM:	Environmental Measurement
EMEA :	Europe, Middle East, Africa
EV :	Electric Vehicle
GLP :	Global Long-term management Plan
HAPS :	High Altitude Platform Station
IOWN :	Innovative Optical and Wireless Network
ML :	Machine Learning
NTN :	Non-Terrestrial Network
NW :	Network
O-RAN :	Open Radio Access Network
PCIe Gen6 :	Peripheral Component Interconnect Express Generation 6
PGRE :	Private Generation of Renewable Energy
PQA :	Products Quality Assurance
RedCap :	Reduced Capability
T&M:	Test and Measurement
VR :	Virtual Reality
V-RAN :	Virtual Radio Access Network
WRC :	World Radiocommunication Conference

Anritsu
Advancing beyond

